

**菅茶山** 儒学者、詩人。備後の山あいにも全国の学者・文人が訪れ、関西方面の詩風を一変させ、私塾は藩郷学に。

かんざさん

忠臣蔵・・・1748 = 備後国神辺で、農業と酒造業を兼ねる家の長男に生まれる。

**徳川吉宗没**・1751 = 3歳 :

源内物産会・1757 = **9歳** :

**大岡忠光没**・1760 = 12歳 :

病弱だったことから、後を継がずに学問を志し、

忠臣蔵大当り1766 = **18歳** : 初めて上洛して、那波魯堂に儒学を学び、

以後、しばしば郷里と京坂の間を往復して、{大坂混沌社}の人をはじめ、儒学者・詩人と交流、

**田沼意次老中**1772 = 24歳 :

黄表紙始・・・1775 = **27歳** :

・・・1781 = 33歳 : この頃、\*神辺の住居{黄葉夕陽舎}に、私塾{廉塾}を開く。

意知刺殺事件1784 = **36歳** :

**田沼意次失脚**1786 = 38歳 : 福山藩に藩校{弘道館}が開設した際、在野からの教授として招かれるも、病気を理由に辞退、

月一回くらいの講義でもと優遇されるのも断るが、

藩主が江戸城内で大学頭林述斎と詩の話をした際、'菅茶山が第一人者であろう'と言われて狼狽、

**カヌミ来日**・1792 = 44歳 : \*突然藩儒医五人扶持となると、支給されたものを、塾生の謝礼とともに、人に預けて蓄財・塾田を購入、

**松平定信引退**1793 = **45歳** :

屋敷全体を藩に納める代わりに年貢が免除され、塾田からの利米で経費を賄うことで、永続的に経営できる体制を整えるべく、

**ゴートン来航**・1796 = 48歳 : 私塾{廉塾}を藩の郷塾とすることを申し出て、許可され、

以後は、塾生から生活費・書物費など実費をとるだけで、謝礼は一切受け付けず、

本居宣長没・1801 = 53歳 : \*藩主の厚遇に応えて、ついに藩の儒官となり、{弘道館}でも講義する。

藤栗毛始・・・1802 = **54歳** :

その後も、藩の儒官として増えた扶持米などを加えて、塾田の購入を続ける。

藩主に従って江戸へ出たり、藩の地誌「福山志料」も執筆。

間宮海峡発見1809 = 61歳 : 永年交友してきた頼春水に頼まれ、その子で放蕩生活を送っていた頼山陽を{廉塾}の塾頭に迎えるも、

**ゴッポン拿捕** 1811 = **63歳** : 上京を志していた山陽に逃げられ、以後、関係が悪化する。

**水野忠成老中**1818 = 70歳 :

・・・1820 = **72歳** : 塾田は郷塾した時の5倍以上となり、

**シギハシ来日**・1823 = 75歳 : 大目付となって、

日本外史・・・1827 = 79歳 : 没した。

「人づくり風土記(広島)」,「没年日本史人物事典」,平凡社百科事典,